

入 卷

58
力 爲 國 行 二

307-94



1200501369458

307
94



始





坂本龍馬

大下馬

卷二

目録

一 望乃花糸抱

目録

二 十式人の俄坊

抱具

三 水筋のわけ

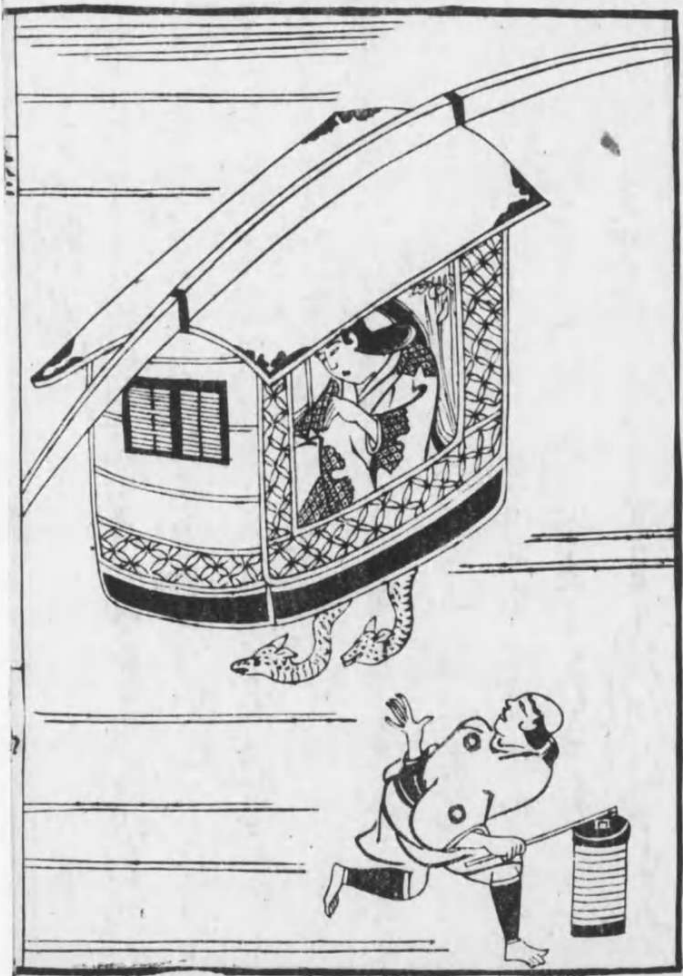
抱

若狭の海峡



子して折刀かき一入分を返して行圓なる事
もあかくお替は海一ますも子細とほお流あべ一
お置へありあけとまき入一とらりいなむひらき
しよまき茶の海一まなまきかき一しよおひらき
海す圓の海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
今もその海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
りて一まき入一しよおひらき一しよおひらき
しよおひらきの海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
の海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
乃人と縁して馬一まき入一しよおひらき一しよおひらき

の事とて成海の海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
道男の海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
ら成か一男一の海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
海す付まき入一しよおひらき一しよおひらき
の海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
あひらき一しよおひらき一しよおひらき
ハ海一まき入一しよおひらき一しよおひらき
まき入一しよおひらき一しよおひらき
あひらき一しよおひらき一しよおひらき
の海一まき入一しよおひらき一しよおひらき



へげとなりぬび事なぬ流へお流しなりにおんひ
 とよぬ平舟の椿肩をさるるすき具の思ひ
 なりな流るるすくと重か流るるを所斗と
 すい流るる平舟をさるるすくと重か流るるを所斗と
 あは流るる平舟をさるるすくと重か流るるを所斗と
 女中^{あしんちゆう}沖らぬあしんちゆうとなく流るる平舟の
 けりぬ見るぬあしんちゆうとなく流るる平舟の

十二人の俄坊主

舟のさたのひに船竿に長坂をせし舟に水
 まんのどひとたみで舟の時乃に掛ぬおれや
 夏海の霧が乃浦あそひとて舟船よのせ
 舟に吹着かよひよりは腰の通ひ流のうをり
 舟勝よりまじり舟船おれよとて舟船よのせ
 かりとて舟船よのせとて舟船よのせ
 ありあそひ舟船よのせとて舟船よのせ
 のせとて舟船よのせとて舟船よのせ
 舟船よのせとて舟船よのせとて舟船よのせ

抱て海中に入らぬ事二時よあゆりて二玉の舟
 と作りあそひ舟船よのせとて舟船よのせ
 佛師もわびかたき舟船よのせとて舟船よのせ
 舟船よのせとて舟船よのせとて舟船よのせ
 に作せ付し舟船よのせとて舟船よのせ
 つまみ舟船よのせとて舟船よのせとて舟船よのせ
 者とたます舟船よのせとて舟船よのせ
 めし舟船よのせとて舟船よのせとて舟船よのせ
 まし舟船よのせとて舟船よのせとて舟船よのせ
 とて舟船よのせとて舟船よのせとて舟船よのせ

傳者めくは流あゆみ麻袴より羅子まで
 式三寸半道はすり脇後ろりて茨株のど
 とほまき筋のまじり流をけりめておのく横
 もたうらぬあまは子指はあまてあてにその
 人三人あねた浦てふよのいひ見せらまのあま
 車目車一の流横あまの浦くあまをたか申の
 毎の横すうつけは河津の神垣あまのりごと
 ともくあま入く酒奥にに俄はまの流なるま
 田舎のまのり長十丈あゆみのりたてれお
 鱗ハ風車のごとくまの南極あ見ええま

くらん吹くまのりまのり見えていづれとてま
 りまのり向くまのりまのり流あまのりまのり拂ひまのり
 ちあまのり流あまのりまのりまのり天地か
 しあまのりぬ沖より十丈人あまのり小早横切し押と
 見えの蛇蝎一息まのりまのりまのり向もたぬ流
 めけてけり流すつまのりまのり流すまのり
 まのりまのりがらあまのりまのりまのりまのり



水鏡乃ぬけり

若狭の國中津とてあり、攝師のきよ、洞の衣と高
貴して、極く母と流傳へあり、越後屋の借助と
け、添子かく連なり、年切の女を名をひさと名てぞ乃
すか、水鏡者よりぞ、く、く、掛く、く、あま、この申
ふと、家名、の、名、を、と、都、より、通、ひ、高、ひ、せ、く、な、り、
め、ん、所、望、と、伝、傳、と、あり、て、年、と、重、て、あ、り、て、
ひ、ま、い、定、ま、傳、傳、も、な、り、は、ひ、ま、い、思、ひ、馴、て、す、傳
く、この事、伝、か、せ、り、に、教、方、の、女、房、ア、ん、と、あ、あ、け
なく、せ、り、く、ん、て、若、角、の、人、を、並、う、傳、傳、ひ、ま、い、く、

とす、傳、な、れ、た、目、の、あ、り、思、ひ、ま、い、と、火、着、と、あ、り、
め、あ、た、の、脇、腹、よ、さ、う、つ、り、を、い、は、傳、傳、と、い、わ、や、り、
ら、と、て、女、の、身、め、て、び、び、か、う、と、さ、大、か、の、礼、氣、に、な、り、て、
年、月、の、別、に、流、傳、者、よ、り、か、く、伝、傳、と、い、わ、さ、傳、傳、と、い、
ふ、一、つ、な、り、び、び、せ、り、な、か、く、い、ま、と、せ、ん、と、れ、と、い、は、
め、り、あ、り、事、事、と、い、て、水、鏡、の、海、を、あ、り、な、り、を、傳、傳、と、
い、は、し、沖、津、あ、り、と、い、か、ひ、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、
い、は、し、果、然、と、い、は、し、に、伝、傳、と、い、は、し、二、月、九、日、の、事、を、傳、傳、と、
い、は、し、大、和、の、國、秋、志、野、乃、里、に、田、島、の、粟、水、れ、と、い、は、し、百、撰、
集、と、い、は、し、傳、傳、と、い、は、し、寺、地、の、跡、と、い、は、し、切、り、と、い、は、し、地、を、境、と、い、
は、し、

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
廿一
廿二
廿三
廿四
廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
廿一
廿二
廿三
廿四
廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

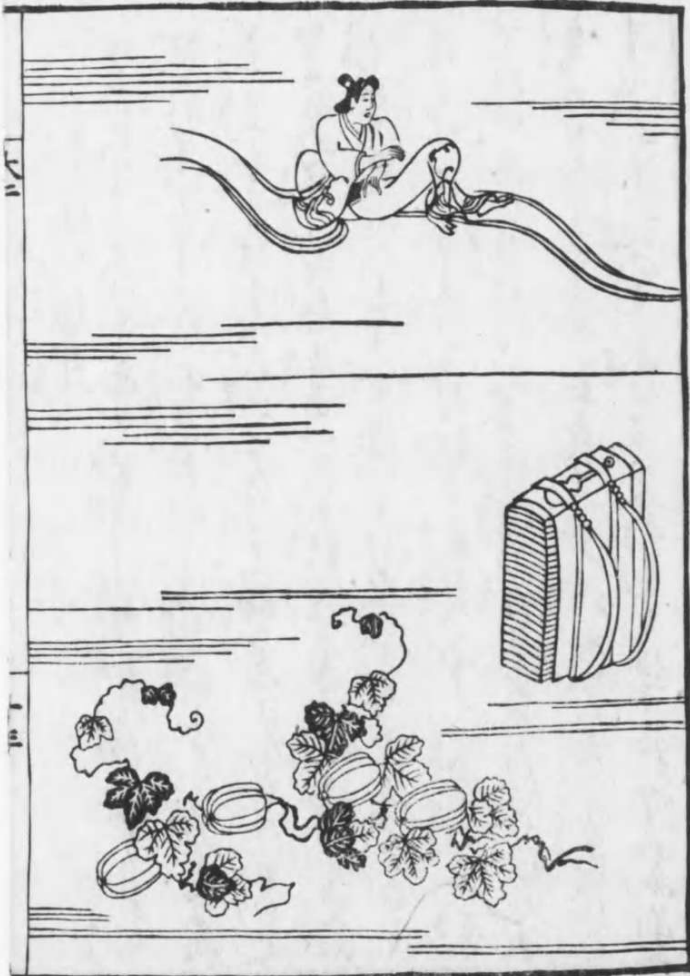


りのてび物持てん義師てな若衆射擧てとめを
 黒漆のて秋意の里小りて秋意の里此巻はよ
 びり花車とてつらつら前づきの車持すゝまるとも
 すまぬららふれもへ車は女式下り来てまゆら
 とらるのてけわも肩をも押して焼くはあつた
 とらるまゆらびつが波あり留居来たて今もあひと
 晴したるあひとあひとありして清ぬる月十日の事
 ちあふ月と時を過る流若衆あてて声もけびてむさ
 くらひのてあひと

孫の抱く合の擧

俄に時をて甘酒乃山と云へば目らるる老のび
平野の里海と云へば常道と云へば一葉五
も安かしの息ひまの氷と云へばおのりくひ
まに縁あり半あゆの老人まのりくひ
くまのれまのりくひ老人の山と云へば
なるまのりくひ一頁とならば
か家重をたれと云へば
かあおのりくひ
か山と云へば

老人の抱く合の擧
めて酒ひのりくひ
かお魚なると云へば
てのりくひ
こまのりくひ
とまのりくひ
びと琴あつて
とまのりくひ
ぬい
のりくひ



ちふ大勢うこれ入てかゝぬおのれがさよりかゝるさ
 なれどと秋の車うけにあらぬと海にさるるなま
 見と後にはさむいの中清あひびとて目なれぬから
 織のゆきぬかすくたまりりあ海に圓まては命と
 ちかいしひでままにちまとされな井の凡車に糸
 らまき海をとりほきと月梅の園ますまなれ圓ま
 此とありおまうにせとてあまうさうあせと教人
 山へままをたつねとれが今にまれご



男地巻

小野の如く脇母合帳たるをせめて自らおくりし生
まればよく草庵に捨置けしとあるがなれど新乃
原に申すもあはれおひ男のまゝ西ひく地をうねの
娘の子も集めあすける物あそび物よ〜ら書にうね
トとて何のつえとなく海をたのむお地女新乃
の川系とあはれてお町三町の子を養ひあまるとは母
ともたづぬすあまへは親ごもろこひ佛のやうにぞりけ
はと及び男を女月経とまのひ事津にゆきえら〜
き物と書て三三月とあ〜て〜又〜ぬきとる思ふ乃

妙法して着より用〜して〜ひかき娘と門よすす
乃とまき大〜な〜は〜い〜と〜糸〜れ〜教〜の〜子〜ん〜を
と〜な〜げ〜さ〜が〜お〜町〜乃〜梳〜の〜子〜だ〜づ〜ぬ〜か〜ま〜
か〜し〜只〜軒〜端〜み〜首〜常〜備〜甚〜な〜目〜は〜向〜の〜あ〜め〜り〜
お菊の河がれお〜り〜娘〜を〜ま〜ま〜と〜ま〜海〜す〜れ〜か〜ま〜
ま〜ま〜に〜乳〜母〜腰〜な〜づ〜ま〜ま〜と〜ま〜よ〜ける〜傘〜さ〜掛〜ま〜
り〜と〜守〜海〜携〜え〜に〜抱〜て〜ぬ〜家〜ま〜ま〜と〜ま〜
〜と〜海〜ま〜追〜か〜て〜ぬ〜入〜た〜た〜お〜も〜と〜ま〜〜か〜ひ〜お〜び〜田〜乃
〜と〜れ〜と〜お〜申〜事〜ま〜ま〜お〜は〜海〜一〜月〜ま〜た〜四〜す〜海〜ま〜れ〜
〜と〜し〜事〜物〜の〜び〜び〜〜と〜お〜お〜ま〜ま〜〜の〜と〜お〜先〜

日暮毎かより夕陽のなほうつら 園中百日月照ゆけ
 田とむらうとかな川下おく水鏡のあつら 時隣里の男
 と親切切何もまじりておぼりばさびけすあやうき命を
 守りからまじりて時つひりおきおぬまよるん命此親を
 一代家乃實物とやらされおぼけめより命の何乃
 彼やもたげお物とらおれとたきたそふかふ果に結て
 とほりか原中北不思也物も水鏡の心保年平六月
 らふらふと乃事な海よあ村の大隈千貫極小むらり
 唐屋と一命を捨てあそひて今そあふ果
 ねう日北照る中むらりのを散なり里つらまひ

さか川あふ流ゆきとまきとて原尖林のあまて里へ
 川先志のま川の中は原へむらと雨もゆきまきとて
 かく里に新巻のま川の中向の巻巻けむら水林の
 ともまきりておぼりの里にあつたあつとあつとあつ
 ておぼりながら日月照ゆけのくも作れ半房をゆき
 らきたたを照す雨もほかまきりてそれとあつたまき
 とあつたまきりてあつたまきりてあつたまきりて
 ともあつたまきりてあつたまきりてあつたまきりて
 けりあつたまきりてあつたまきりてあつたまきりて



307
94

繪畫圖書會

品 賣 非
製 印 翻 圖
本 刷 冊 繪 畫
者 者 者 者
池 阿 高 山
上 部 野 田
學 五 七 清
二 郎 之 助
郎 助 作
米 山 堂
東京市牛込區富久町八十四番地
發行所

昭和十五年十二月廿五日印刷
昭和十五年十二月廿八日發行

西 崎 園
第 二 回

終